

## 28年5月分

## 製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成28年5月1日～ 28年5月10日

## 2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
5月分の回答企業数は8社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/5月	26/6月	26/7月
入荷動向	国産材製材品	6.3	△ 6.3	△ 6.3
	外材製材品	△ 21.4	△ 7.1	△ 7.1
	その他	0.0	0.0	0.0
販売動向	国産材製材品	6.3	△ 6.3	0.0
	外材製材品	6.3	0.0	0.0
	その他	0.0	0.0	0.0
在庫動向	国産材製材品	0.0	6.3	△ 6.3
	外材製材品	0.0	△ 12.5	△ 12.5
	その他	0.0	0.0	0.0

・国産材製材品の入荷は5月のやや増加が、6月、7月はやや減少。外材は3カ月連続して減少。その他は3カ月連続して横ばい。

・国産材製材品の販売は5月のやや増加が、6月はやや減少、7月は横ばい。外材は5月のやや増加が、6月、7月は横ばい。その他は3カ月連続して横ばい。

・国産材製材品の在庫は5月の横ばいが、6月やや増加、7月はやや減少。外材は5月の横ばいが、6月、7月は減少。その他は3カ月連続して横ばい。

## (2) 価格動向 Weight. D. I.

品目		26/5月	26/6月	26/7月
スギ	柱角 KD10.5×3	△ 7.1	0.0	0.0
	柱角 KD12×3	△ 7.1	0.0	0.0
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	桁角	0.0	0.0	0.0
	母屋角	△ 7.1	0.0	0.0
	タルキ	△ 7.1	0.0	0.0
	間柱	0.0	0.0	△ 7.1
	加工板	△ 7.1	0.0	0.0
	ヌキ	0.0	0.0	0.0
	平割	△ 14.3	0.0	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	△ 8.3	0.0	0.0
	柱角 KD12×3	△ 8.3	0.0	0.0
	土台角 10.5×4	△ 7.1	7.1	7.1
	土台角 12×4	△ 7.1	0.0	0.0
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	50.0	50.0	50.0	
米マツ平角	△ 14.3	△ 14.3	△ 14.3	
米マツ割物	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7	
北洋エゾマツタルキ	0.0	0.0	0.0	
北洋アカマツタルキ	0.0	10.0	10.0	

・スギ製材品の価格は、5月のやや弱含みないし横ばいが、6月、7月は総じて横ばい。

・ヒノキ製材品の価格は、5月のやや弱含みないし横ばいが、6月、7月は総じて横ばい。

・カラマツ土台角は強含み。米マツ平角及び割物は弱含み。北洋エゾマツタルキは3カ月連続して横ばい。北洋アカマツタルキは5月の横ばいが、6月、7月はやや強保合。

モニターからのコメント

(荷動き)

- ・国産材入荷順調。WW27mm間柱少ない、その他順調な入荷。防音工事なくなると羽柄の動き悪くなる。ビルダーの動きも悪く、売り上げ横ばい続く。荷動き少し増加、6月の記念市のためWW,アカマツの仕入れ増加(関東)。
- ・入荷は全般的に横ばい。構造材の動きが悪い、造作材等の販売量が増加した。在庫は変化なし(中部)。
- ・熊本地震の影響で原木不足になる可能性ある(国産材)。アカマツ(ロシア)の入荷減のため値上がり気味。米マツの需要が減少(関西)。

(価格動向)

- ・北洋エゾタルキは商品不足(関東)。
- ・スギ柱角(KD10.5cm、12.0cm) 58,000円/m<sup>3</sup>、スギ桁角(東北グリーン材) 40,000円/m<sup>3</sup>、母屋角(東北材) 2等30,000円/m<sup>3</sup>、スギタルキ(東北材) 45,000円/m<sup>3</sup>、スギ間柱(KD) 58,000円/m<sup>3</sup>、スギ加工板(グリーン材) 東2,600円、(KD) 東4,000円、スギヌキ(東北) 40,000円/m<sup>3</sup>、秋田 50,000/m<sup>3</sup>、スギ平割(プレーナー) 45,000円/m<sup>3</sup>、同(ラフ) 40,000/m<sup>3</sup>、ヒノキ柱角(KD)・土台角 10.5cm 80,000/m<sup>3</sup>、ヒノキ土台角10.5cm 12.0cm 80,000円/m<sup>3</sup>、米マツ平角 KD65,000円/m<sup>3</sup>、米マツ割物AD 65,000円/m<sup>3</sup>、北洋アカマツタルキ(アSEMBル単価) (S) 68,000円/m<sup>3</sup>、(P) 58,000円/m<sup>3</sup>、(バンドル単価) (S) 65,000円/m<sup>3</sup>、(P) 55,000円/m<sup>3</sup>。(関東)。
- ・スギ丸太の生産量が少なく、製材品(構造材)の販売動向は悪いが、単価は変わらず。母屋角等も構造材と似た動き、小径木(14cm)が特に少ない(中部)。ヒノキは生産量を落としているため、販売は悪いが価格は落としていない。米マツは5月は下落、仕入量が販売量よりも多い。北洋エゾタルキ、北洋アカマツタルキは変わりなし(中部)。